

第7回山ノ内町立小学校統合準備委員会 議事要旨

○開催日時・場所・出席者

日 時 令和5年10月13日(金)午後6時30分～8時40分

場 所 山ノ内町役場 401会議室

出席者 (委員)

・出席委員 14名

委員 長 原 隆文 (小学校長経験者)

副委員 長 中山 洋一 (町子ども会育成会連絡協議会)

湯本 将平 (南小学校PTA会長)

佐藤 匡則 (山ノ内中学校PTA会長)

下田 晶子 (すがかわ保育園保護者会長)

湯本 文洋 (東小学校長)

中村 まゆみ (南小学校長)

齋藤 義和 (西小学校長)

山口 近 (山ノ内中学校長)

春日 雅之 (区長会会長・佐野区長)

湯本 弥助 (区長会副会長・沓野機長)

坂口 弘 (区長会副会長・横倉区長)

吉池 茂敏 (区長会副会長・須賀川区長)

佐藤 重子 (主任児童委員)

(教育委員会)

山ノ内町教育長

竹内 延彦

山ノ内町教育委員会事務局 教育次長

田中 浩幸

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係長

坂口 俊明

山ノ内町教育委員会事務局 教育指導主事

小林 妙子

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係

畔上 俊樹

山ノ内町教育委員会事務局 学校教育係

宮崎 瑛

傍聴者 6名

○協議状況(議事要旨)

1 開会

・田中次長開会の宣告。

2 委員長あいさつ

・原委員長からあいさつした。

・竹内教育長からあいさつした。

3 会議事項

(1) 小学校統合にかかる地区・保護者懇談会の結果について 資料1

・坂口学校教育係長から説明した。

○質疑、意見等

委員：前回の準備委員会に置いて、第5回準備委員会までに決めてきた方向性、提案に関していろいろな意見が示されたが、準備委員会でどういことを話し合うのかわからなくなった。9月27日に実施した総合教育会議で町長の意見を聞いて困っている。教育委員会はどうか考えているのか。

教育長：統合準備委員会の会議の役割をしっかりと確認したい。

これまで町長の真意を受け止めようと努めてきた。

町長は統合について反対ではなく、魅力によって移住者が増えるような学校をめざしたいという希望がある。ただ、教育委員会では外から注目を集めるだけでなく、今山ノ内にいる子どもたちにとってどういう学校をめざすことが山ノ内町にとって魅力的かを議論してきた。魅力的な学校を作ることは今いる子どもたちにとっても重要なこと。町長の意見をそのまま受け入れるのではなく、委員、町民のみなさんの意見を聞きながら山ノ内町としてどのような学校を作ることが魅力的なのかをこの半年われわれなりに議論してきた。

この準備委員会は、統合校の位置をどこにするかや複数のプランに対して決めるということではない。教育委員会としてしっかり方向性を定める。

整備計画案に基づいて教育委員会として議論を進めてきた。町長の言う「魅力ある学校」は中学校敷地（小中併設）でも工夫しだいでできないことはないと考えて。できるだけ多くの方の意見や財源のことなどを踏まえて教育委員会として方針を絞ったうえでこの準備委員会に提案させていただきたい。

本日の会議は、これまでの懇談会や総合教育会議の内容を共有して意見をいただきたい。次回以降、こちらからより明確な方針を示したい。

委員：前回の準備委員会で事務局から提案があり比較検討した西小・東小については白紙になるのか。

教育長：できれば事務局でしぼって提案したい。委員のみなさんにどちらがよいかという聞き方はしないほうがよいと考えている。

委員：総合教育会議で敷地面積、既存校舎について話があったが、もう一度検討したほうがいい。今の建物で共用の教室などが多すぎるのではなどを含めてひとつの案として考えていく。そうすれば足りなかつたら増築していくのは当然。個人的には古い校舎をリフォームするのではなく、これからの子どもたちのために新しい校舎で統合するのが当然だろうと思っている。準備委員会として、具

体的に検討して示せば、町長も町費を投入するとなるのでは。そういう方向づけの検討会議でよいか。

教育長：これからの子どもたちのために新しい校舎を作るべきとの貴重な意見はありがたい。

小学校統合については教育委員会に責任がある。町長は予算権を持っている。町長が納得できる案を教育委員会が提示できないと話が進まない。具体的な教育の中身や中学校敷地でも狭くないと示すことが我々の責任と思っている。

委員長：総合教育会議の町長が話した内容も関連しているので、総合教育会議の意見や町長の考えも頭において委員の方々のご意見をお願いしたい。

委員：保護者・地区の懇談会にできるだけ出席して意見を聞いた。独自に保護者へアンケートを取った。早く中学校敷地に統合してほしいという意見があった。校舎新築のためにお金を使って将来に負債を残していいのかという意見もあった。9月27日の総合教育会議終了後に傍聴していた保護者にどう思うかを聞いた。場所はどこでもいいから早く統合してほしい。来年にでも既存校舎を使って統合できるならそれでもいい。という声があった。

魅力とするICTや英語教育はもう普通のこと。山ノ内町には豊かな自然がある。スキーや農業体験ができる学校のほうが都会の人には魅力になって移住して来るのではないか。それに特化した学校を作るのが山ノ内町のメリットを最大限に活かせるのではないか。

教育長：いい学校、魅力的な学校ができれば、保護者はどこでも子どもを通わせますという声は自分も聞いた。この委員会では、方向性が定まった後に教育の内容、通学路やスクールバスなどといった具体的な議論に進むために、教育委員会が一刻も早く方向性を定めて、委員の皆様に住民の要望に応えるための議論をしていただけるようにしたい。

本日は委員の全員から意見を求めたい。

委員：魅力ある学校とは？27日の会議で町長は「小中一貫なら魅力がある」と言っていた。（整備計画案には）なぜ一貫と書かずに連携にとどめているのか。小中一貫は町の魅力になるのか。受験などを考えて、圧縮して勉強するというイメージしかなく、連携というと小学生に中学の先生が教えてくれるというメリットが考えられるが「一貫」と「連携」の違いは？

教育長：小中学校はすでに連携をしている。連携という形ならさらに統合しなくても充実させていくことは可能。さらに併設にすることや小中をひとつの学校にして

9年制で一緒のカリキュラムの中で学ぶ義務教育学校にすることでメリットはある。

運動会や音楽会などの行事を見て、それぞれの小学校に個性があり特徴があり素晴らしいと思った。小学校が一つになることの相乗効果でもっともっと豊かな学びができることをめざさないといけないと感じた。連携というと今もやっているし、深めることもできる。

さらによりよくするための一貫校や義務教育学校にシフトするかどうかということも議論する必要がある。

委員：小学校高学年に中学校の先生として小中の免許を持っている先生がより専門的に教えるということは一貫校でないとできないのか。それとも校舎が併設することで連携することでできるのか。やはり一貫校にしたほうが魅力になるのか。今は3校が離れ離れにあるが、以前に比べて連携はされていると思う。隣なら連携ができるのか、それとも一貫校にしないとできないのか。

委員：できるかできないかと言えばできる。ただ、今の状態では現実問題として中学校の先生が3つの小学校に教えに行くということはできない。ひとつなら可能性が出てくる。敷地が離れていれば移動時間がかかる。授業時間は中学校50分、小学校は45分、いろいろとすり合わせをしなければいけないことがある。近くにあればやりやすい。小中一貫校と義務教育学校については、精査する必要がある。まず小学校が統合することの良さを魅力ある学校づくりの第一に考えたい。小中一貫はその中の要素であり、小中一貫校にするから統合するとい順番ではないと考える。3校が1校になる良さがあるから、中学校とも連携できるというほうが分かりやすい。

委員：小中一貫なら魅力的と町長が言うならば、小中一貫を進めればいいのではないか。いろいろな意見はあるが、まとめていかなければならないので、整備計画案に小中一貫を載せることが可能で町長にも納得してもらえらるのならば検討したらどうか。

教育長：整備計画案は、まず小学校3校を統合することについて議論してまとめたもので、小中一貫については検討することで止まっていた。その点について議論を深める必要があると認識している。3校統合はやり遂げるとして、中学校敷地に統合するならば小中一貫もという流れになるので、町長も納得する形で議論を深めていく。

委員：何のための魅力か。子どもや保護者にとって魅力になっているか。教育的なメリットはあるが人を集めるほどの魅力と言えるのかは疑問。教育の内容が小中

一貫に連動していかないと意味がない。小中一貫教育でどんな子が育つか、どんな児童・生徒像を描けるか。統合したらこんな子どもたちが育つ、というのが大事なのではないか。それがなくてただ小中一貫は魅力だというのは拙速ではないか。まずは統合する学校はこんな学校で、こういう子どもたちを育てたいということ、去年まで議論してきたものを改めて確認したらどうか。

委員：整備計画案をブラッシュアップして、どんなところにメリットがあるか明らかにすればいい。

町長はビジネス目線で考えているのでは。移住者は多く来てほしいが、どこを見ているのか。魅力は外から来る人に対する魅力で、統合する場所がないなら西小学校に押し付けるようだと統合のメリットと矛盾する。魅力ある～は素敵なのだが、誰をターゲットにしているかがわからない。統合したメリットをもう一度明確にして、整備計画案をブラッシュアップすれば考えやすくなるのでは。

委員長：町長の考えについても意見が出ているので、その点についても説明していただき、その後また両方を考えて意見をいただきたい。

(2) 総合教育会議の結果について 資料2-1

- ・坂口学校教育係長から説明した。
- ・田中教育次長からイメージ図について説明した。

面積によってこの配置で狭いのか適切なのか、中学校敷地の共有できる部分については共有可能か、校舎以外のスペースについてはどう考えるのか等を踏まえて「広いか狭いか」の議論がされているので、参考までに示した。一人当たりの面積として、小中一体的に利用し、中学校敷地全体で考えたとき他県の事例と比べてそんなに狭くはない。あくまでイメージとして。

○質疑、意見等

委員長：総合教育会議の内容説明と、敷地が狭いのではないかという点についての資料を示していただいた。これも含めて、先ほどから小中一貫についての話や統合のメリットを考えて進めるべきではという意見などが出ている。ご意見を出していただきたい。

委員：教室配置イメージ図を見ると特別支援学級の教室がひとつしかない。懇談会でも特別支援教育についてどう考えているのかという質問があったが、このイメージでは特別支援教育に配慮がないのではないか。

委員長：これがベストということではなく、あくまでイメージとして示されている。こ

れをもとにしてもっとこういう風にすべきと考えていくもの。今の意見はもっと特別支援教育に配慮してほしいということによいか。

委員：そのとおり。

次長：今年の3月までに作られたイメージ図であり、令和5年4月以降に準備委員会で中身について検討すると予定した前段階のもの。懇談会等の意見をこれから肉付けしていく。

委員長：新しい学校の中で特別支援教育について配慮していくことは当然と考える。

委員：町長は床面積のことを言っていたということによいか。要望はこれから作っていく中で出てくるのだから、単純に児童一人当たりの床面積15㎡をとらえて意見を言うのではなく、もっと広い目で建物について考えてほしい。多額の建設費用を要するのだから当然いいものを作っていかなければならないのでそういう意見を言っていたほうがいい。

委員：教育現場の者として、各論でこうしたほうがいいなどの意見はたくさんあるが、あくまでもイメージとして示されていて、細かいことは今言うところではないと思っていた。

ただ、町長がいう魅力ということで議論するのであれば、このイメージ案では納得してもらえないと思う。ここでフリーにアイデアを出しあえば事務局も考えやすいのではないか。

抜本的に見直して町長にプレゼンできる内容にする必要があるのではないか。

委員長：中学校敷地案ということで狭いということに対してのアイデアのひとつとしてとらえておきたい。

地域懇談会や町長の考えを踏まえた上で、整備計画案を現状のままではなく、町長が納得できるものに、また、地域懇談会で出された意見をより意味のあるものにしていくということで意見を出していただきたい。いろいろな考えを出していきたい。

委員：敷地は広いほうがいいとして、用地の足し増しは考えていないのか。

教育長：総合教育会議でも用地取得については議論された。用地交渉はこれまで動けない状態であったが、これからは用地交渉についてチャレンジしていく必要性は感じている。

委員：給食センターも今の敷地から外に出してもいいのではないかと。中学校敷地も共有するならば、給食センターは分離して、小学校の建物は小学生だけにすればよい。コンパクトにまとめれば都合がよいのも分かるが。

委員長：中学校敷地とは別に既存の小学校を使う案についてはどうか。

委員：面積の比較表で、敷地面積の数値が合わないのはどうしてか。

次長：数字のずれは、現状の台帳に記載されている数字と上空からの映像をもとに試算したもので、ズレが出たと思われる。実測設計はまだできていない。

委員長：他の視点でご意見は。魅力ある学校という点から、小中一貫について出しているが。

委員：自分たちは一年限りの委員で、あまり意見を言えない。先生たちの目線で意見を言ってほしい。

委員：小中一貫、義務教育学校、小中連携については、メリットもデメリットもある。たとえば小学校で6年生という区切りがなくなるのはどうか。教員は小中の免許が必要になるので、3年後、5年後に小中の免許を持った教員が確実に集まるか心配。

自分は「併設・連携」がいいと思う。理由のひとつ目として、小中の校舎が近くにあるのは利点になる。相互乗り入れがしやすい。距離が離れているというのはデメリットである。連携というのなら、なおさら近くにあってほしい。二つ目として前任のT小中学校では、校舎がつながっているので、すぐに行き来ができた。中学校の美術の先生が小学校の図工の授業に来てくれた。中学校の免許しかない先生だと教えることはできないが、小学校の先生がいることによってそこは補完できる。小学生が掃除や部活など生活の中で中学生の姿を見るなどができたことで、中学生になって野球やバレーをやる子が増えた。普段の姿が見られるのはすごく効果がある。

授業の時間が違うのでチャイムをなくした。そのことで子どもたちが時計を見て行動するようになった。プラスの面もある。

移住者を増やすために魅力ある学校だけでできるか。ICT教育・英語教育についてこれからは当たり前。それに特化していくことはできるが、人が移住したくなる、住みたくなるのは農業とか観光とか経済的基盤が必要。その中のひとつが学校。学校だけで人を集めるのは困難。

委員長：小中が近くにあって連携することの良さを出していただいた。

委員：魅力がある学校…いろいろな中身、アバウトで分かりにくい。整備計画案を見直し、やはり必要なことは教育の質の向上を一番大事にされなければならないと思う。自然の中で、地域と一体的に取り組んでいるE S Dを前面に出すこと、特別支援教育への配慮や豊かな心の教育、人権教育などは引き続き大事にしたい。

現在、児童クラブは学校の空き教室を利用しているが、今ある受け皿が継続されるのか心配になる。学校を中心に保護者や地域の方の活動があると考えたと駐車場の確保・用地買収も必要。

小中連携も話題になっているが、先生が行き来しやすいのはメリット。高学年の教科担任制を取り入れてより専門的な学びを提供できるようになるのは良い。

子どもにとっても異学年の集団との交流ができ、教室以外にも居場所があることも含めて学校が楽しくなる。学年関係なく大勢で遊べるような、日常的に体験ができるような、先生だけでなく子どもたちが交流できる統合小学校になってほしい。それが山ノ内町の良さ。

地域で大人のコミュニティがしっかり根付いているのが素晴らしい。その縛りが大変なこともあるかもしれないが、失われる心配があるものを大事にして、山ノ内町の良さが活かされる学校づくりをめざしてほしい。

委員：これまで小規模校、大規模校の両方で勤務してきた。それぞれの学校に魅力があるし、できることもできないこともあった。運動会に大玉送りはできない。大人数の合唱は素晴らしい。小さな人数になじんでいる子がいいが、統合前の少人数での運動会、それはそれで素晴らしかったが、統合後の小学校運動会を見に行くと、やはり素晴らしいと思った。統合したときに、この人数でどんな子どもたちに育てるかが大事。

正直、中学校敷地は狭いと思う。子どもたちの立場で考えるとすれば、もう少し周りの用地の取得も考えたい。精一杯やって、子どもたちにとってこういう魅力があるというイメージを持って学校づくりをしていくことが大事。

委員：小中一貫を特色として中学校敷地に併設がいいと思う。中学校は町の玄関口に近い立地である。駅に近いということはいろいろな可能性がある。そういったことを活かしながら小中一貫教育の魅力を考えたい。

「広くない」ということは、コンパクトとも言える。自然に交流が生まれるメリットもある。統合では、多様な人となつながらすることはこれから大事と思う。いろいろな価値観から学び、そこでどういう教育をすることが魅力かを位置付けたい。

保育園・小学校・中学校の連携ももっと出すようにしたらどうか。現在、どこ

の学校でも教室に入れない子や学校に登校できない子がいるのが課題。今も連携はしているが、よりコンパクトに同じ敷地に学校があって、子どもたちのいいところや気になるところを子どもの名前を語りながら、小中の先生と一緒に見ていければよい。小中併設型がいいと思う理由。

整備計画案を見直してブラッシュアップして提案していくといいと思う。

委員長：今の発言で小中併設型の良さが十分に伝わったと思う。

委員：小中の距離が近いと、児童理解の上で効果がある。情報をすぐに共有できて、それを積み重ねていける。

委員：児童数の減少はどんどん進んでいる。統合はすぐにするべき。先日の総合教育会議で、西小にいったん暫定的に統合した場合、中学校敷地に戻ることは困難。やはり中学校敷地で統合するのがベストでは。中学校も生徒数は減っていて空いている教室利用できれば費用も抑えられる。スピード重視で考えてほしい。

委員：最初の準備委員会の時に、統合したらスクールバス利用の時に待っている所で事故にあわないように安全帯を設けるとか、雨風が防げるような建物があったらいいだろう…など具体的に話し合うと思っていた。それが話し合う内容が違って戸惑った。

中学校敷地に校舎新築で進めるべき。プールはなければいけないで地域外でも民間利用でもいい。町長は自然豊かな地域で環境と農業があり、自然豊かな背景をバックにした学校をイメージしているかもしれないが、豊かな林間コースを走れるようなグラウンドがあればいいのか。東小学校は防災の面で危険個所になっているなどの話を聞けば、やはりほかの予定地よりも中学敷地に勝る場所はない。

魅力とは何か。敷地条件などではなく教育の方針・内容ではないか。学校のまわりに農場や田んぼなどいい環境がある。そこを利用すればいろいろな活動はできる。中学校敷地ありきで進めてもらうのがいいのではないか。町長はどういう魅力を求めているのか聞きたい。野趣豊かなところで育ったほうがいいといっても、大勢をまとめるときに危険があればそれはできない。中学校敷地ありきで今年度中に結論ができればいいと思っている。

委員：学校の面積で教育を議論するのは違うのではないか。

学校だけで、その町に住みたいと思わせることはできないと思う。産業もセットで町の魅力も全体として上げていって、結果としてそこがいいとなるのでは。小中連携が今は一番の魅力だろうと考える。

魅力でなくて特色をだ出せばいいのではないか。地域の魅力・特色を出すこと

でそこに産業がついてくれば、当然人は来る。学校の校舎だけで魅力を作っても人は来ない。人口を増やす手立ては行政がやるべきである。教育委員会は教育を考えればいい。

地域のエゴをなくせと言っても実際にそれぞれ地域のこだわりがある。それがなくなるのが山ノ内中学校敷地への統合と思う。

今の教育に魅力がないと言っているように聞こえるが、実際には地域のみなさんと協力して魅力ある教育を行っている。それ以上に何か魅力を求めるのであれば、町長に示してほしい。

これまで3か月の時間が無駄になるが、もとに戻らざるを得ないのではないか。この準備委員会の委員は、統合校を新しい場所へ求めるとの意見はないと感じている。この整備計画案の中で加えることはあるかもしれないが、中身の魅力を考えて、地元の子どもたちのための学校を作してほしい。

委員長：魅力とは教育の条件ではなく教育内容であるというご意見。

委員：ほかの委員の方々の意見を聞いてなるほどと思った。小中併設で子ども同士の交流が生まれるのがいい。子どものお手本になるのは子どもだと思う。上の子を見て下の子は育っていく。小中併設で統合し、いろいろなお手本があれば子どもは成長すると思う。

保護者の中には、早く統合してほしいという意見があるので早く進めてほしい。

委員：小学校ではりんごの栽培や米づくりをしている。自分たちはそれが魅力と思わないが、都会の人・外の人にとってみればそれこそが魅力になるのではないか。現状をもっとブラッシュアップできればよい。

委員：教育の中身を考えたい。統合するメリットを考えるという点から詰めていきたい。それぞれ意見が参考になった。

委員：理想はいろいろあるが今までの議論の中で実現する可能性が高い中学校敷地に1校統合という方向になっている。統合準備委員会としてまとまって進めていきたい。

委員：新築に30億円かかるというが、費用の内訳で国からの補助金などを利用して町からどのくらいのお金を出さないといけないかを示してほしい。くわしく知りたい。

委員長：すべての委員さんに発言していただいた。

教育委員：委員の方々から意見やアドバイスをいただいた。町長から「小中一貫ならOKだ」という発言があった。小中一貫にするならばイメージ図はこのままでなく、新しいイメージ・設計図が必要だということ。それを知りたいと思った。

教育委員：人口を増やすために中身より外身を…という考えではなく、町長に納得してもらえる説明を探っている。
小中一貫、小中連携、義務教育学校はそれぞれ違うと思うが、どれがいいのか。山ノ内町にとって併設・連携がいいのか。

委員：それぞれの違いや何がいいかという話には時間がかかる。宿題として、改めてみんなでそれぞれの立場から意見を出し合い、理解が深まった中で結論を出すことが大事だと思う。

委員長：小中併設の良さがたくさん出てよかったと思う。連携なら、一貫なら、何がよくなるのか、何ができるのか。カリキュラムの編成もいろいろとできることが増えると考えられる。義務教育学校ならどうか。いろいろな資料を見て、さらに教育委員でお考えいただきたい。この準備委員会は統合について具体的に掘り下げていくものである。方向については、本日の意見を受けて、教育委員会決めていただきたい。

教育長：限られた時間ではあったが、こちらも迷っている状態ではあるが、皆さんのご意見を聞きながら、最後はしっかり本質的なところで議論できているのではないと思う。皆さんのご意見は心強く思った。本日の皆さんのご意見をしっかり受け止めて、教育委員会の方針をより明確なものにして次回提示できるように努力したい。町長は町づくり全体を考え、その中のひとつの重要な要素として学校の魅力化を求めると言っている。そのために必要な予算はつけると言っていることは心強く思っている。われわれが本日のような本質的なところをしっかりと説明できれば町長もわかってくれるのではと信じている。子どもにとって教育の質を高めるための、他にはない山ノ内町らしい特色をしっかりと出せる学校づくりを町長に説明し、納得してもらえるよう努力していきたい。

4 その他

・ 次回の日程について

教育委員会としての方針が出たところで、決めさせていただく。11月中には開催したい。決めたところで改めて通知する。

5 閉会

添付資料

資料 1 小学校統合にかかるとの地区・保護者との懇談会結果

資料 2 - 1 令和 5 年度第 1 回山ノ内町総合教育会議について